済生会今治病院
病気の話

大腸がん検診のすすめ

今回は副院長で内科担当の宮池次郎医師が、大腸がん検診の大切さや検査方法などについて、教えてくれました。

▲宮池次郎医師

大腸がんは近年急激に増加しており、罹患数で第1位、死亡数は肺がんに次いで第2位となっています。40～50歳代から増加しはじめ、加齢とともに上昇していきます。危険因子は、野菜不足・高脂肪の食生活、過度の飲酒、肥満、運動不足などが挙げられます。

早期に発見できれば、内視鏡や手術による切除で、そのほとんどが治癒できます。ただし自覚症状が現れないことも多いため、40歳を過ぎたら毎年「大腸がん検診」を受けて、便潜血検査を行うことが大切です。便秘・下痢を繰り返す、便に血が混じっている、便が鉛筆のように細くなっている、といった大腸がんを疑わせる症状がある場合や、近い血縁者に大腸がんになった人がいる場合は内視鏡検査を受けることが望ましいと考えられます。

当院の内視鏡センターでは、内視鏡挿入形状観測装置UPD-3を用いた「ScopeGuide」を導入しています。この機器は大腸内のスコープの形状と位置をリアルタイムに描出でき、スコープ全体の形状を可視化することにより、挿入をよりスムーズにし、検査の苦痛を軽減できます。

また当院では、自宅にて下剤を飲んでいただき、検査時間に合わせて来院していただく方法や、鎮静剤を使用し、寝ている間に検査を受けていただく方法、上部内視鏡と同時に受けていただく方法など採用しております。検査を受ける前にご相談ください。

ScopeGuideによるスコープ形状表示イメージ

社会福祉法人
恩賜財団 済生会今治病院
今治市喜田村7丁目1番6号 https://www.imabari.saiseikai.or.jp/
☎0898-47-2500